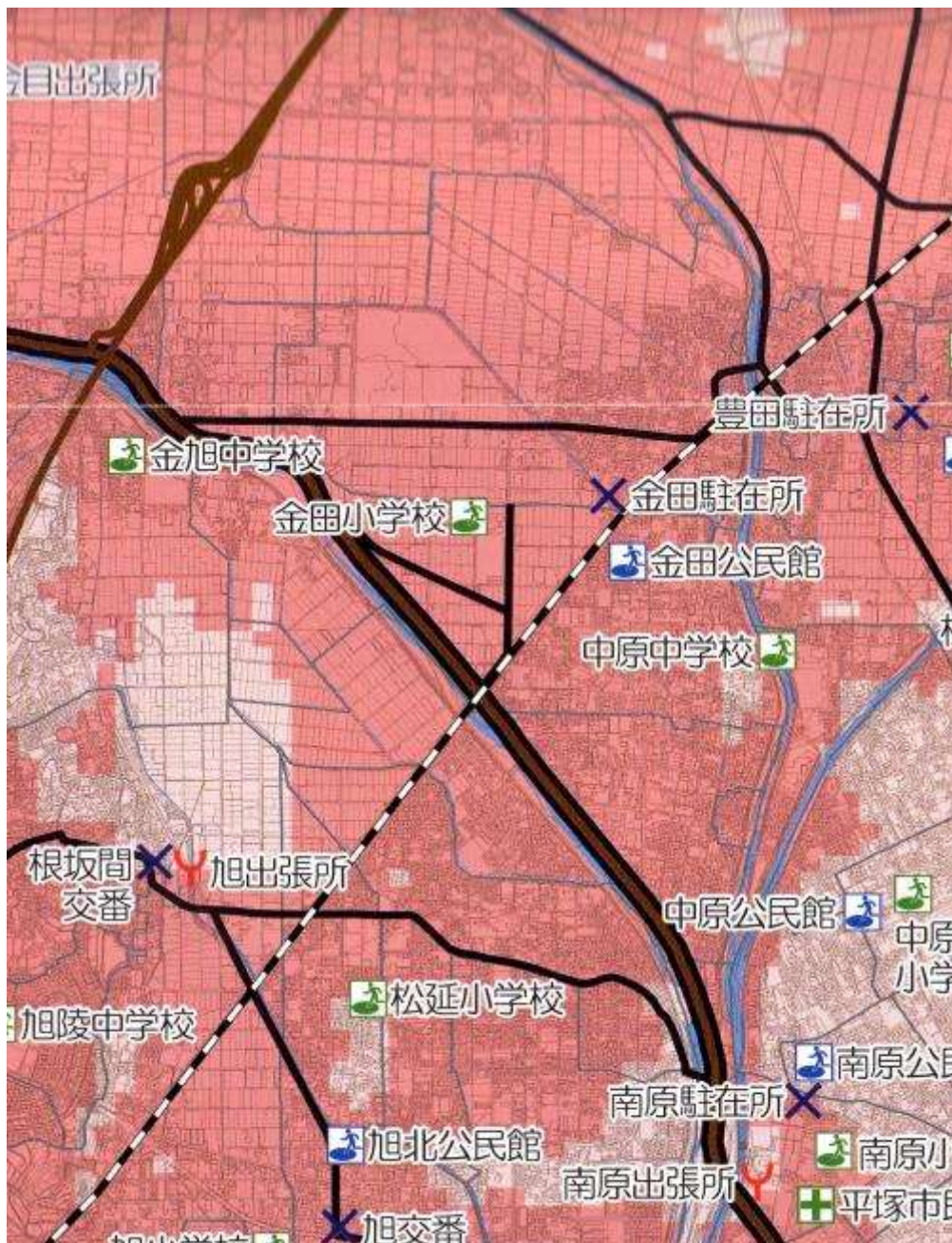


平塚市地震防災マップより

（1）揺れやすさマップ

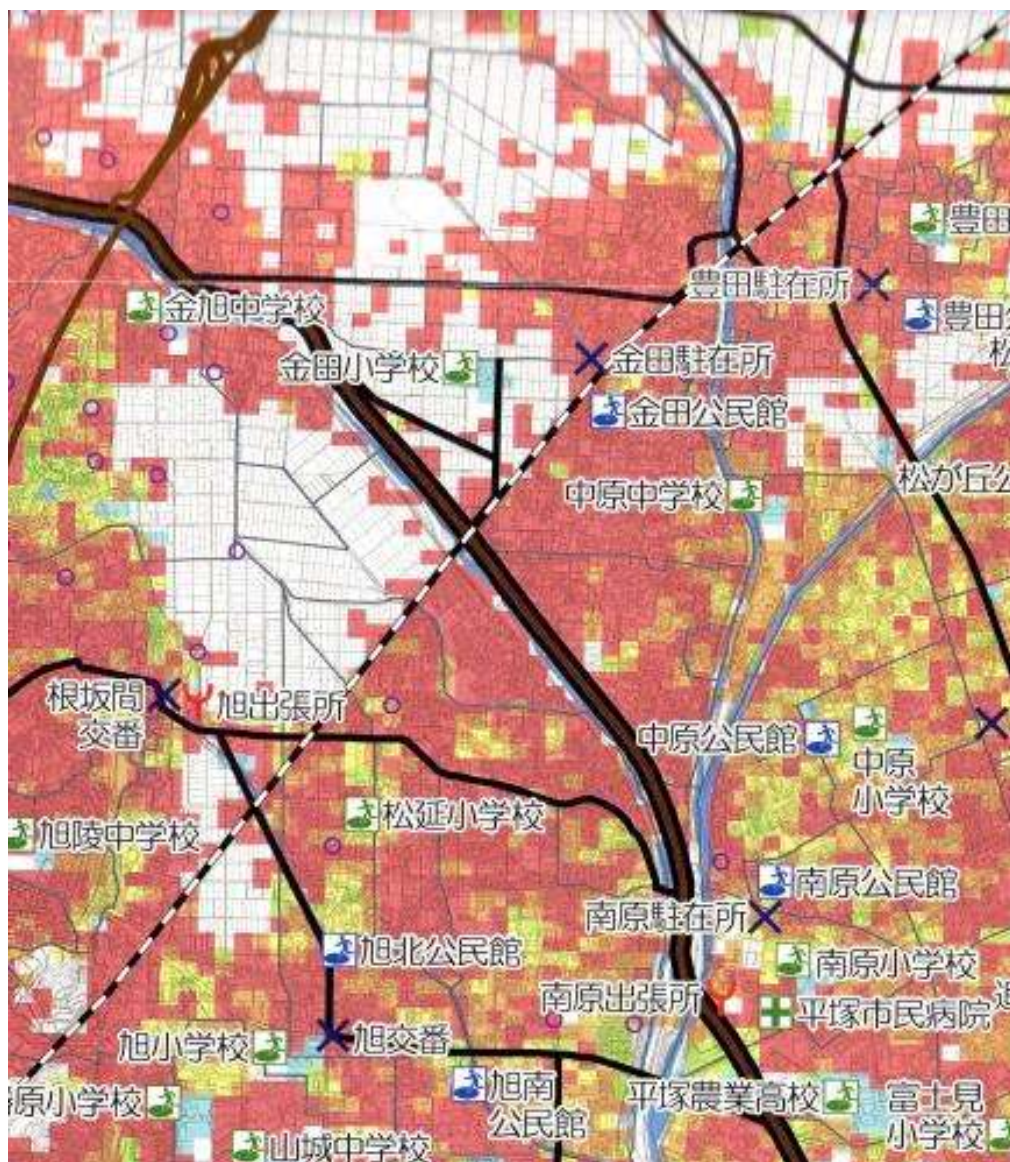


金田は全地区が 色で、震度7の震度階級を示しています。


震度6強 } ・人は、揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

震度7 } ・固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりして、飛ぶこともある。

(2) 建物被害予測マップ



震度7の揺れによる建物の被害予測です。

 色は、建物の全壊率が40%以上です。(4割以上の家が全壊する地域です)

 色は、30~40%以上。  色は、20~30%以上。

色分けのない地域は、水田、畑作地帯で、家屋がありません。

■ 金田地区全体が震度7、家屋の4割以上が全壊する大惨事の発生する地震です。同様な規模の大地震は、大正時代の「関東地震」、歴史的な「元禄地震」があげられます。今回想定される地震についてマップに基づいてみてまいります。

(3) 地震防災マップの前提になる地震

① 2012年(平成24)7月平塚市民へ配布「地震防災マップ」

前提とされる地震：南関東地震(1923年関東地震の再来)とされています。

マップには、『南関東地震とは、相模トラフを震源域とする地震で、想定マグニチュードは7.9です。この地震は、1923年関東地震の再来を想定しています。この地震の平均発生間隔は200年から400年と言われており、30年以内の発生確率は1%以下と低くなっています。しかし、発生した場合には、平塚市の大部分で震度7の揺れとなり、予想される全壊建物が35,000棟を超えるなど、甚大な被害が予想されています』と、防災マップに記されています。

② 平塚市で想定される地震と被害想定：平塚市HP(2016/09/05)より

平塚市で想定される地震と被害想定

神奈川県地震被害想定調査(平成27年3月)では、平塚市に6つの地震と5つの参考地震が想定されています。

想定される地震名	モーメントマグニチュード	全壊棟数(棟)	半壊棟数(棟)
都心南部直下地震	7.3	500	4,400
三浦半島断層群の地震	7.0	10未満	120
神奈川県西部地震	6.7	10未満	210
東海地震	8.0	30	230
南海トラフ巨大地震	9.0	70	480
大正型関東地震	8.2	21,700	14,400
元禄型関東地震 (参考地震)	8.5	21,840	14,770
相模トラフ沿いの最大クラスの地震 (参考地震)	8.7	27,160	13,990
房総型地震 (参考地震)	8.5	40 (津波による建物被害)	800 (津波による建物被害)
明応型地震 (参考地震)	8.4	10未満 (津波による建物被害)	40 (津波による建物被害)
元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震 (参考地震)	8.3	470 (津波による建物被害)	1,310 (津波による建物被害)

※冬18時の想定。ただし、津波による被害は深夜0時の想定。

平塚市のHPには、市で想定される地震として上表が示されています。「南関東地震」の記述はありません。代わって「大正型関東地震」と記されています。

「大正型関東地震」：上表の6段目です。

マグニチュードは8.2、全壊棟数21,700、半壊棟数14,400とあります。

加えて、「神奈川県地震被害想定調査(平成27年3月)では、平塚市に6つの地震と5つの参考地震が想定されています」と記されています。平塚市の防災担当者から『平塚市は、県の27年報告に準拠する』(電話聞き取り)と伝えられました。

防災マップの前提「南関東地震」から「大正型関東地震」への変更です。マップの改定が望まれます。

- ③ 神奈川県地震被害想定調査委員会 「地震被害想定調査報告書 平成27年3月」、(第2章 1) 想定地震 より (平成21年度の報告では南関東地震とされていました)

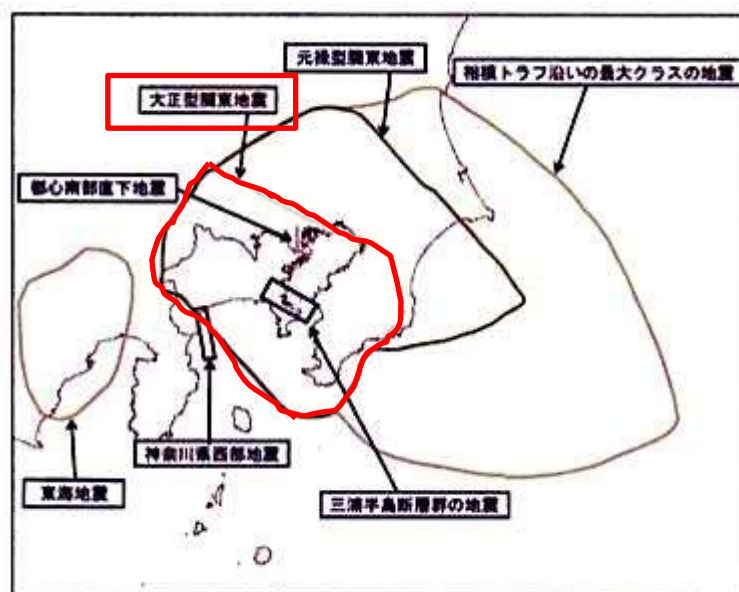
表 2.1 想定地震

想定地震名		備考
都心南部直下地震		
三浦半島断層群の地震		
神奈川県西部地震		
東海地震		
南海トラフ巨大地震		
大正型関東地震		
(参考地震)	元禄型関東地震	
	相模トラフ沿いの最大クラスの地震	津波による被害は「西側モデル」と「中央モデル」で想定
	慶長型地震	津波による被害のみ想定
	明応型地震	津波による被害のみ想定
	元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震	津波による被害のみ想定

「大正型関東地震」は

- ・ 1923年の大正関東地震の再来型です。
- ・ 相模トラフを震源域として、地震規模はモーメントマグニチュード8.2です。
- ・ 平均発生間隔は200年から400年です。
- ・ 30年以内の発生率はほぼ0%から5%です。
- ・ 今後100年から200年先には発生の可能性が指摘されています。

「大正型関東地震」の震源域



■ 「関東地震」は
大正12年9月1日に発生し、関東大震災とも呼ばれています。

■ 「大正型関東地震」
今後発生すると想定される地震で、大正12年の「関東地震」が再び発生すると想定されています。

— 線内：震源域

(4) 1923 (大正12) 関東地震 <大正型関東地震> (私たちの住む町金田より)

関東地震というと、東京や横浜の火災による大災害が語られますが、震源地に近い小田原から三浦半島にかけての相模湾岸の諸地域では、家屋・交通機関と共に大津波・山崩れ等の広い範囲に亘る深刻な大被害がもたらされました。

「地震の拡大は、地下約15kmでの岩石破壊が神奈川県秦野市付近から始まり、秒速約3kmの速さで放射状に広がり、東は房総半島を含む南関東地方直下という範囲の断層が動いた事によってもたらされました。その規模は、西北西～東南東方向に沿って約130km、幅は70km、深さは30kmほどの大規模な断層活動でした」

<国立科学博物館、日本地震学会他(2002)「THE地震展」>

① 岩波新書より

関東地震 大正12年(1923)9月1日 午前11時58分32秒 相模湾の底でとつぜん岩盤の破壊が始まった。大地震が発生したのである。・・・

40秒ほど続いたはげしい揺れが、いったん治まったかと思ったのもつかのま、第二、第三の揺れが襲ってきた。それぞれ12時1分、12時3分ごろだったとされる。

地震の規模は、最初の本震がM7.9、続いて起きた二つの余震は、M7.2とM7.3であった。1995年に阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震がM7.3だったことを思えば、これらは、余震といえども激甚な揺れを地表にもたらしたのである。

・・・震源に近い小田原や平塚などでは、激しい揺れによって多数の建物が倒壊し、橋も落ち、いたる所で崖崩れが発生した。小田原では、東海道線の蒸気機関車が転覆、茅ヶ崎～平塚間の相模川にかかる同線の鉄橋は、十数片にちぎれて落下した。・・・

関東大震災は、東京や横浜などでの大規模な広域火災がクローズアップされているためか、地震とともに発生した大津波や、山地の各所で起きた山崩れなどについては、注目があまり集まっていない。しかし、相模湾沿岸には大津波が襲来しているし、箱根や丹沢山地では、いたる所で土砂災害が発生している。・・・熱海には、・・・波高12m、・・・鎌倉や逗子では、5～6mの津波・・・

秦野では、崩壊した大量の土砂によって押切川がせき止められ、「震生湖」が誕生した。・・・

大地震から2週間後の9月15日、豪雨が丹沢山地(大山)を襲い、谷筋にたまっていた土砂が一挙に押し流されて、大規模な土石流が発生した。土石流は、大山阿夫利神社の門前町だった大山の集落を襲い、民家約140戸を押し流してしまった。・・・

<伊藤和明(2005)「日本の地震災害」岩波新書>

(注) 関東地震の震源地：相模湾北部の海底説、神奈川県西部の地底説等、諸説があります。

フィリピン海プレートの沈み込みとの関係が指摘されています。

② 神奈川県（1965）「神奈川県災害史（自然災害）」より <一部改>

- 関東地震 大正12年（1923）9月1日 午前11時58分
震央 相模湾北部 M7.9 最大震度6（烈震）

<概況>

この日の東京、横浜地方は、台風が衰微した低気圧の影響をうけ、まだ南西の風が強めだったが 雨は昼前ごろには上がりかけ、気温30℃前後とかなりの蒸し暑さとなっていた。

楽しい昼餉のひと時が始まりかけていた時刻である。この時刻に、相模湾北部を震央とし、最大震度6（烈震）という関東地震が発生したのである。

地震の激しさは、関東南部の震度6をはじめとし、東北南部から中部地方までが4以上、全国のほとんどが有感であった。

この大地震により、各地に家屋の倒壊、津波の襲来等による被害が続発したが、それらにもまして大火災の発生による人的・物的被害が、京浜地区を中心として起こり、死者行方不明者10万余という災害史上未曾有の大惨事を引き起こした。

<県内の状況>

本県は、この大地震により最も著しい被害を受けた。即ち、烈震による建築物の倒壊とこれによる圧死、負傷、更にそれらをはるかに凌ぐ、大火災による多数の焼死、加うるに地震津波による相模湾周辺の被害もあった。死者行方不明者は実に3万3千、6万6千の負傷者と12万を越す全壊、焼失家屋が記録された。・・・

横浜市の被害は甚大で、死者2万3千余は、当時の市全人口の5.4%にあたり東京市の2.8%を大きく上回った。・・・全半壊戸数は8万棟に達し、全戸数の84%が被害を受けたが、東京市の49%をはるかに上回っている。・・・

■ 関東地震報告

平塚付近より厚木に至る間の被害は実に著しきものあり、殆んど全村倒潰し居れる処少なからず。
<関東大震災報告 中村左衛門太郎 中央气象台報告>

■ 相模地震（関東地震の余震） <神奈川県災害史（自然災害）>

相模地震 大正13年1月15日 午前5時51分 震央丹沢山付近 M7.2

<概況>

この地震は大正12年9月1日の起きた関東大地震の余震であり、前年9月中に2300回以上の余震を起こし、その後次第にその回数も減り規模も小さくなってきた頃突然起きた破壊的余震で、丹沢山北麓より南東にわたる一帯が震央で、相模川、酒匂川流域の被害は特にひどく、前年の震災後新築した家屋さえ倒壊したものもあり、死傷者、損壊家屋もその地域に集中した。

＜県内の状況＞

県内では全域が震度5（強震）を感じたが震央の南東端にあたる旧厚木町、藤沢町、戸塚町を結ぶ地域内は建造物の破損状況から見て震度階級5の内の最強震度であったと思われる被害も大きかった。

③ 関東地震 中郡の被害状況

震災に扱れる土木の崩潰破壊せるもの、中郡に於て殊に甚だしきを見る、郡の南西部即ち大磯町以西平塚より秦野に通ずる県道以南は、被害比較的軽微なりしも、其他各村何れも激甚を極め、至る所道路は亀裂陥没して、犬歯の如く錯雑し、道路としての価値形状を失ひ、橋梁また橋台は河川に崩落して空虚数間渡る能はざるもの、破壊流失其原型を止めざるもの等数ふるに違あらず、殊に馬入川と花水川とに挟まれる流域は、何れも殆んど全滅の惨状を呈したり。・・・

平塚町の被害は激甚を極め、大磯に入る丘陵の別荘地帯を初め、倒潰戸数2298戸、死者275名（内、相模紡績会社160名）を算せり。火災も4箇所に起こり、殊に平塚海軍火薬廠の発火は、隣接町村民を驚かし、22棟を延焼せしめたりしが、其他は、幸に警察官消防夫の尽力によりて大事に至らずして消し止むることを得たり。

＜中郡の農業方面＞

米平年作七万二千石に対し、被害約五分（三千六百石）、此損害見積額十万八千円、麦七万石に対し被害約一割（七千石）、此損害約六万三千円、・・・其他、秋蔬菜の蒔付不能と、夏蔬菜の輸送機関破壊による価格下落とのために蒙れる損害は多大なりき。・・・

＜神奈川県（1983）「復刻版 神奈川県震災誌」＞

④ 金田村の罹災状況

罹災状況調（大正12年10月調）

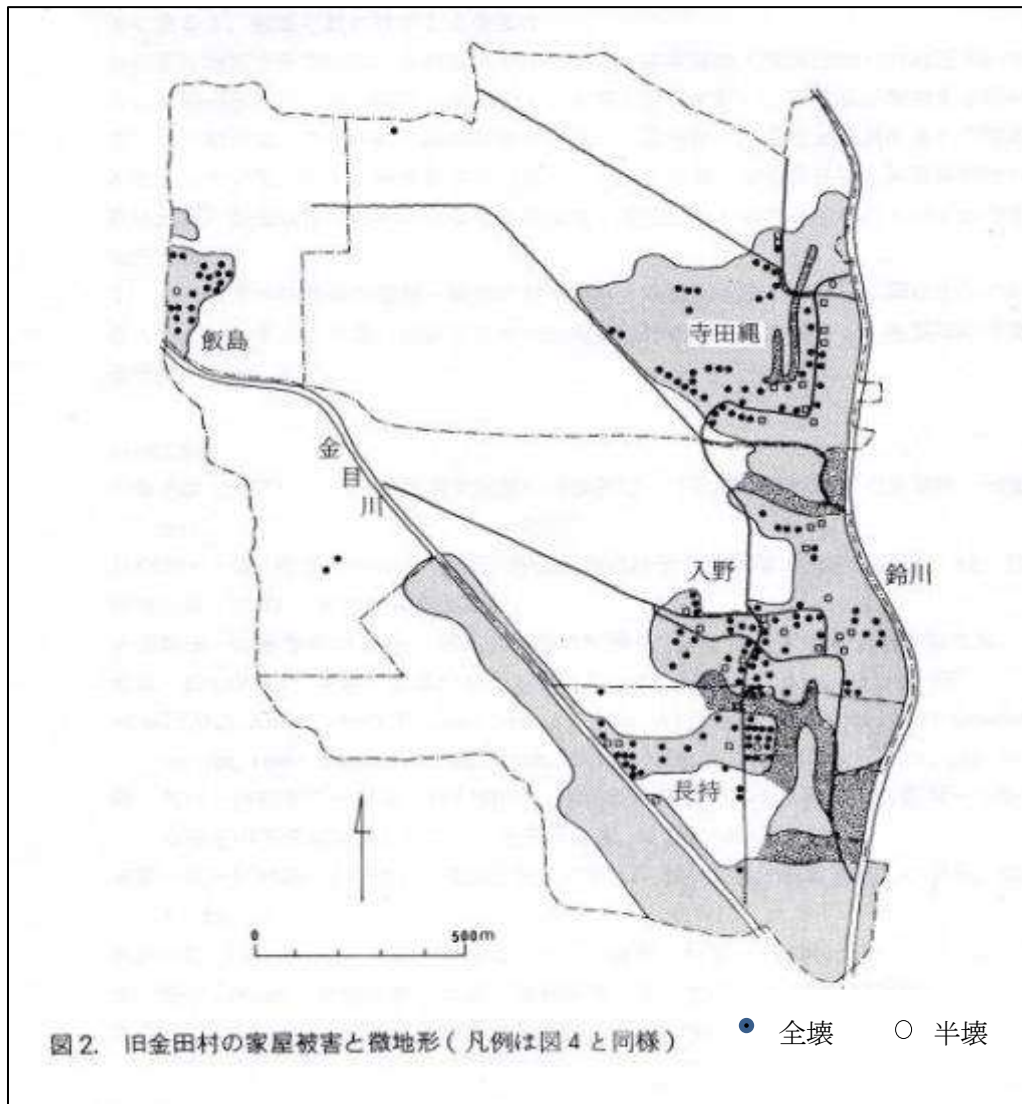
金田村	罹災戸数						死傷者数	
	全潰	半潰	破損	完全	全焼	半焼	死亡	負傷
	153	38	11	—	1	—	12	13

＜神奈川県（1983）「復刻版 神奈川県震災」＞

（罹災、死傷の数値は、調査により微妙に相違していますが、傾向はほぼ同じです）

金田村の、大正10年の世帯数は204、総人口は1399人でした。上記の統計から、罹災戸数は203戸におよびました。村の全ての家が被害を受け、その内4分の3は全壊という大災害でした。

旧金田村の被災状況です。平塚市博物館の貴重な資料を紹介します。



<出典：山崎敦子・森慎一，1991，平塚市博物館研報 自然と文化 14，43～50.

「平塚市域における大正地震の木造家屋被害と微地形との関係」>

⑤ 金田地区 関東地震の体験談

- 昼食中、地震が起こり、家族7人が草家（かやぶきの家）に閉じ込められたが、父が先に外に出て、屋根のカヤをむしり取り家族全員を引き出してくれた。

- 金田の被害はひどかったようだ。お昼を食べ終わった人がいたが、食べていた人は藁屋根の天井から落ちた、すすの入った食事を持って、近くの藪の中に逃げ込み、食べた。

- 養蚕のため二階に保温用の練炭があったが、高窓から消火をして火災にはならなかった。
- 金田では火災はなかったと聞いている。
- 当時養蚕が盛んだったので、外で寝るのに、桑の枝を敷きその上に藁、蚊帳を張ってしのいでいたと聞いている。そのため、今でも「いざという時に」と、蚊帳を捨てられないでいる。
- 大揺れの後、ほとんどの大きな藁屋根が潰れ、あたりの見通しが良くなったことを記憶している。
- 飯島では、倒壊しなかった家屋は2軒だけで、お寺を含め残りは全部倒壊した。
- 小学校が倒壊し、近くのお寺に分散し勉強した。
- 金目川、鈴川の土手や田島（畑の中の盛り土）も天王道も平らになり道がなくなった。
- 鈴川の土手は崩れ落ち、川幅が狭くなり流れはかなり変わり、古川も変わったようだ。
- 地割れが出来、豚と一緒に転げ落ちた人が、次の揺れで出てこられた。とも聞いている。
- 大揺れの後、余震が怖かった。家はなく、外で蚊を避けるために蚊帳を張って、近所の人たちと助け合いながら避難していた。
- 余震の揺れは、船に乗っているように地面が揺れ、一晩中眠れなかった。
- 余震が続き、遊びに行っても、一揺れすると、立ち木にかじり付いた。それは恐ろしかったし、揺れが長く続くように思えた。とにかく余震が恐ろしく、厭で、何年も続いた。今でも、救急袋を用意している。
- 大正13年1月15日、再度大きな地震があり、前回のとき仮小屋に住んでいた人も今回の地震でそれも潰され、寒い冬だったのでとても恐ろしかった。
- 地震の道があると言われ、サイトウミート近くで昼寝をしていた人が、地震に気付か

ないでいたと聞いている。揺れない所、揺れる所という地震の道があったようだ。

- 朝鮮人が暴動を起こす、甘粕大尉とかの流言飛語が流れていた。東京だけでなく金田でも同じで、十三歳以上の女の子は隠れなければいけないとも言われ、地震より騒ぎが大きくなった。
- 朝鮮人騒動があり、火の見の鐘が鳴り、町内会長は日本刀を持ち警戒に当たった。(本当は、朝鮮人はやっていなかった)
- 震災後の復興には、朝鮮人が当たり、色氏橋近くの2棟に住んでいたと聞いている。
- 地震後、鈴川の改修に朝鮮からの人足が結構来ていたという話は聞いている。
- 9月1日になると、家では「おじやに葱」、「麦ご飯」などの特別食を食べた。地震のときに食べる物がなく辛かった生活に思いをはせ、贅沢をしないなどの戒めを意味した計らいだったようで、戦争中も行ってた。

⑥ 関東地震関連の写真



鈴川堤防の地割れ

堤防の表面に鈴川の流れに沿うような状態で地割れが走ります。



金目川堤防の地割れ



金目川堤防の地割れ

「金目川の堤防はメチャメチャで、増水で、水は自由自在であった」との体験が語られました。

<以上、写真三枚 神奈川県「大震災写真帳」>

地震後の堤防の状態です。地割れの幅は広く、長く続いています。地震による家屋の倒壊もさることながら、この堤防の損壊は、堤防の強度を著しく減退させます。いや、堤防の機能すら失わせることとなります。

この状態の時、大雨による降水量が増大することを想定すると、堤防の決壊は避けられません。しかも、決壊は至る所で発生してもおかしくはない状態となります。

又、河川の上流での土砂崩落・流出が下流部では土砂の堆積をもたらし、河床を埋め、高くし、堤防の溢水、氾濫をもたらすこととなります。いわば、地震の第二次災害という状況が起こります。

後述する、元禄関東地震は、金目川の筋替えという大改修を結果しています。



相模川鉄橋の崩落

< 出典：平塚市博物館「震災調査報告書」 >

当時の国鉄相模川の橋梁の崩壊です。鉄路を含め、橋そのものがこの状態です。アメ棒のように曲げられています。強烈な地震のエネルギーが分かります。

(5) 元禄関東地震 (元禄時代に発生した大地震)

1923年9月、大正関東地震に先立つ220年ほど前、元禄16年(1703)旧暦の11月23日、関東地方を襲ったその地震は、元禄年間に発生し元禄地震と呼ばれています。時は江戸時代、今から313年前の事です。マグニチュードは7.9-8.5と推定され、震源は相模トラフの房総半島南端にあたる千葉県野島崎付近と推定されています。地震断層の活動は、大正関東地震とほぼ同じと推定されています。

① 元禄関東地震による被害

元禄関東地震は江戸を初め房総半島、相模湾沿いの諸地域に多大な被害をもたらしました。

(i) 「祐之地震道記」 梨木祐之

京都下加茂神社の梨木祐之神官が、江戸から京へ下向する道中、戸塚宿で元禄地震に遭遇しその見聞を「祐之地震道記」として著しています。

11月21日 江戸を発つ。

22日 日暮れに戸塚宿に着く。夜の丑の半刻(夜中の3時ころ)地震。

「壁がへたへた崩れかかり、立ち上がろうとしても横の倒れてしまう」

その後も東海道を京へ向け旅を続けます。

26日 藤沢宿は「ほとんど家は倒れ、30人ほど圧死した」

相模川を渡り、「馬入の在所も家は倒れていた」

平塚宿は「人家悉く倒潰」等、地震の様子を記しています。

(参考)「元禄郷帳」平塚宿家数443軒、人別2,114人

(ii) 「折たく柴の記」新井白石

新井白石は湯島天神の下に居を構え、地震に遭遇しました。「折たく柴の記」から江戸の様子を知ることができます。

「おほくの箸を折るごとく、また蚊の聚り鳴く如くなる音のきこゆるは、家々のたふれて、人の叫ぶ声なるべし」と惨事を記しています。

(iii) 大津波

房総半島から相模湾の沿岸を所によっては10mにもなる大津波が襲い、死傷者、田畑の被害、家屋の崩壊などの多くの災害が発生しました。

(iv) 土砂災害

山崩れ、がけ崩れ、斜面崩落、土石流が各地で発生しました。

(v) 大規模な地盤の変動

房総半島の南では、地盤が大きく隆起し海食棚と云われる海岸地形が地表に出現した所もあります。元禄関東地震では、概して房総半島から相模湾の各地では海岸線が隆起しています。この地盤変動の傾向は大正関東地震についても確認されています。

② 元禄関東地震後の金目川筋替え

地震発生当時の金目川の流路は、今日見られる流れとは異なります。

「金目川 (入野) 村西を流れる。＜幅廿五間＞昔は村の中程を斜めに疎通し異方にて鈴川に合せしが、屢水溢せしを以って、宝永三年命ありて今の如く堀替れり」＜新編相模風土記稿＞とあます。金目川は、オオマガリ辺りを南東方向に流れ、入野村の中程、成願寺の北辺りを流れ、鈴川に合流していました。長持村は金目川の右岸に位置していました。

地震発生後、金目川の河床が隆起し、2年続きの大雨により堤防の決壊が繰り返され、周辺集落に多大な被害をもたらされました。地域住民の幕府への訴えもあり、宝永3年(1706)金目川の川幅を拡幅し、流れを堀替えるという大事業により、現在の様な流路となりました。金目川の流れは直線化され、長持村は川を挟み東西に分断されました。

(7) 元禄型関東地震と大正型関東地震

元禄地震は、相模トラフが震源とされる海溝型の地震で、震源断層の広がりも類似することから大正関東地震と同じタイプの地震と考えられています。時代的には、大正関東地震に先行する「一つ前の地震」とされています。(参照 p 4 震源域)

元禄関東地震と大正関東地震の発生間隔は220年です。海溝型の大地震は海底のプレートが移動し、沈み込むことから発生し、周期的に繰り返されて起こると考えられています。この考えからすると、次の大正関東地震の発生は1923年の220年後、西暦2143年頃、今から127年後となります。このように今後関東地震と同じ震源域に起こると想定されている次の関東地震を「大正型関東地震」と呼んでいます。元禄地震についても今後同じような規模で起こるであろうと想定される地震を「元禄型関東地震」呼んでいます。

勿論、大地の動きは単純な計算式では求められないと思いますが、災害マップによると、関東地震の発生間隔は200年～400年とされています。

(8) 今後想定される地震

前出の p 4 神奈川県地震被害想定調査委員会 「地震被害想定調査報告書 平成27年3月」、(第2章 1) 想定地震

想定地震名		備考
都心南部直下地震		
三浦半島断層群の地震		
神奈川県西部地震		
東海地震		
南海トラフ巨大地震		
大正型関東地震		
参考地震	元禄型関東地震	
	相模トラフ沿いの最大クラスの地震	津波による被害は「西側モデル」と「中央モデル」で想定
	慶長型地震	津波による被害のみ想定
	明応型地震	津波による被害のみ想定
	元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震	津波による被害のみ想定

報告書にも示されているように、今後、数多くの地震が起こり、甚大な被害がもたらされると考えられています。(再度の掲載)



「かながわ県のたより」 平成28（2016）年 8月号の第1面です。
「大地震への備えは日頃から」とのサブタイトルを含め報じられました。

「日本は、世界の面積の1%にもならない国なのに、世界の約10%の地震が発生しています。体に感じない小さな地震までいれると、いつもどこかで地震が起こっています。日本は世界で有数の地震国なのです」（文部科学省 「地震を知ろう」）

そのうえ、海溝を震源とする地震、断層による直下型の地震の発生は、いずれも規模の大きい地震で大災害をもたらします。

平成23（2011）年3月11日「東日本太平洋沖地震」（東日本大震災）が発生し津波被害、余震、そして福島第一原子力発電所の事故により広範囲に放射能の拡散がもたらされました。震源は日本海溝でした。

平成28（2016）年4月14日 熊本県を中心とした「熊本地震」が発生し、震度は7を記録しました。その後、震源は大分県に及びました。断層活動による直下型の大地震です。

神奈川県「地震被害想定調査報告書」にある今後想定される地震が発生すれば、大災害は必至です。起こると思われる大地震に対して、私たちは個人の領域で、地域の領域で、そして平塚市の領域という三点、「自助・共助・公助」と、いかに立ち向かわねばならないのでしょうか？ 綿密に、行動的なそして現実的な対応が求められていると思います。

(参考) 気象庁のHPから

震度と揺れ等の状況(概要)

0 **【震度0】**
人は揺れを感じない。



1 **【震度1】**
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



2 **【震度2】**
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。



3 **【震度3】**
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。



4 **【震度4】**
● ほとんどの人が驚く。
● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
● 座りの悪い置物が、倒れることがある。



5弱 **【震度5弱】**
● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
● 棚にある食器類や本が落ちることがある。
● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものも倒れることがある。



5強 **【震度5強】**
● 物につかまらなさと歩くことが難しい。
● 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
● 固定していない家具が倒れることがある。
● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



6弱 **【震度6弱】**
● 立っていることが困難になる。
● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



6強 **【震度6強】**
● はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



7 **【震度7】**
● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



地震が起きたら **あわてず、まず身の安全を!!** **緊急地震速報を見聞きしたら**

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 近づくな、門や柵、自動販売機やビルのそば
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- 海岸でぐらっときたら高台へ
- あわてた行動、けがのもと

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!



国土交通省 気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町 1-3-4 電話: (03) 3212-8341 (代表)
ホームページアドレス <http://www.jma.go.jp/>

平成21年3月31日